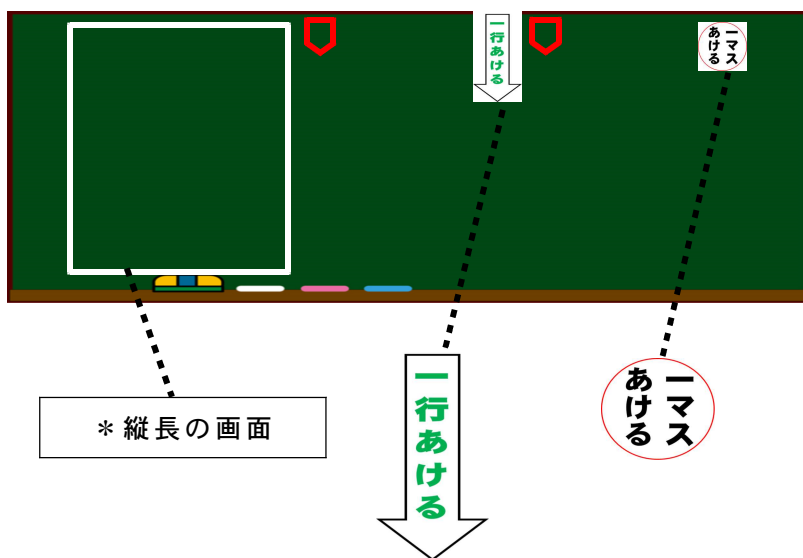
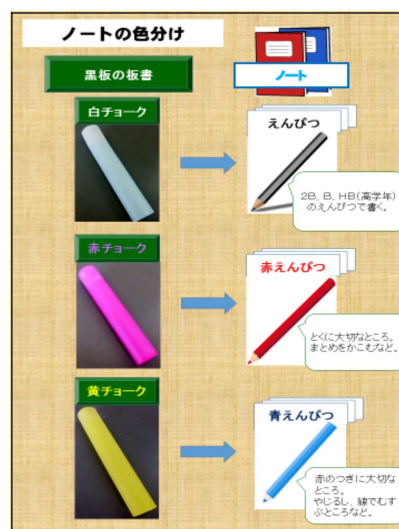


* 黒板を3分割する



* チョークの色分け



3 学習環境の整備

(1) 登下校の時にすることを掲示する。

朝(あさ)

- ① 道具(どうぐ)を机(つくえ)にいれる
- ② ロッカーにランドセルをいれる
- ③ 宿題(しゅくだい)をだす
- ④ 1時間目の道具(どうぐ)を机(つくえ)の上に出し、読書をしてしずかに待つ

帰り(かえり)

- ① ランドセルをとり、りにいく
- ② 机(つくえ)の道具(どうぐ)をランドセルに入れる
- ③ 帰りの会(かえり)がはじまるまでしずかに待つ

(2) 教室の前面には重要なものしか掲示しない。

- ・ 「学校目標」、「学年目標」、「学級目標」、「学習の約束」のみ掲示して授業中、掲示物などに意識がそれないようにする。

(可能ならば、教室前面は掲示しない)



【資料12】活用しやすい「個別の指導計画」

(1) ○○小学校で定めた書式

① 書式例

平成 年度 個別の指導計画

平成 年 月 日作成

氏名	生年月日 平成 年 月 日
クラス	担任
実態等	
本人・保護者の願い	
専門家の所見等	
本年度の重点目標	
健康・生活、社会性等の指導	
各教科等における指導	
まとめと次年度への課題	

② サンプルと解説

- ・ H26年度までは、当該年度の指導計画を1月に作成するスタイル。
- ・ 次年度に引き継ぐことを目的として作成。

平成26年度 個別の指導計画

平成27年1月〇〇日作成

氏名 〇〇〇〇	生年月日 H〇〇・〇・〇
クラス 〇ー〇	担任 〇〇〇〇
<p>実態等 勝ち負けにこだわり、負けるとパニックになる（痙攣を起こす）が、だいぶ落ち着いてきた。顔をひっかく、頭をぶつなどの自傷行為もみられた。首をぐるぐる回す。目をキョロキョロさせる。目が合わない。偏食がひどく、野菜・果物は全く食べられない。当番活動は出来ることもあるが、続かない。</p>	
<p>本人・保護者の願い 集団の中で、思い通りにならないことが我慢できるように。 脳波をとりに、〇〇病院へ。</p>	
<p>専門家の所見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育的ニーズにこたえるために、両者の願いを重視する。 ・ より具体的な姿を聞き取るにしている。 	
<p>本年度の重点目標 教師とやり方やルールを確かめて、活動に取り組み始めることができる。</p>	
<p>健康・生活、社会性等の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勝ち負けのある学習活動をするときは、ルールをよく説明し、負けても大丈夫であることを 納得させてから行うと泣いたり、怒ったりすることも少なくなってきた。 ・ 自傷行為は落ち着いてきたが、手の指のささくれをしっかりとしきりに気にする ・ 当番活動をする時は、具体的に声かけ ・ 野菜も一口ずつだが食べられるように <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動や生活における困難への対応について、総括評価を記入。 ・ 次年度の担任に引き継ぐべき具体的支援を書き込む。 	
<p>各教科等における指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿題は毎日やってくる。学習能力は高 ・ 手いたずらがひどいので、早く課題が終わってしまった時には、漢和辞典を見ながら、大好きな漢字をノートに書かせるようにしたところ集中して取り組んでいた。 	
<p>まとめと次年度への課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習に関する指導・支援で、効果の見られた具体的方法等を記入する。 	

(2) 既存の年間指導計画に配慮事項を書き込むタイプ

① サンプルと解説その1

【この書式で対応する場合の例】

- 年間指導計画(算数科、小学校第2学年)の余白部分に、Aさんの「配慮事項」を加筆するスタイル。
- 年間指導計画の表紙部分に、「個別の指導計画」と添えれば、完成する。
- 改めて書式にまとめるのではなく、既存の書類を活用し、実践に生かす道具として使う場合に有効。
- 例えば、単元「2けたのたし算」では、①授業中に取り組みたい20の問題を2回に分けて行うこと、②解答時間を延長すること、③活動の終わりを大切にすれば、次を始られることの3つを、個別の配慮として記した。
- 単元終了時に、配慮を行った効果について評価を記録すれば、次年度への引き継ぎ資料になる。

3 2けたのたし算 (指導時期 4月～5月)

単元の目標

2位数までの加法の計算は、10のまとまりとばらに分けて計算の場合は十の位に1くり上がることを理解し、筆算で計算すること。

関 2位数までの加法の計算に習熟し、日常生活に用いる。

考 既習の計算のしかたをもとにして、2位数の加法の計算のしかたを、既習事項をもとにして考える。

技 和が2桁の範囲の2位数の加法の計算が筆算でできる。

知 加法の交換法則を活用して、加法の計算の確かめができる。

和が2桁の範囲の2位数までの加法の計算のしかたが、加法では、交換法則が成り立つことがわかる。

小単元	時	学習内容	主な
1 2けたのたし算 (◎p. 22～28)	1	既習の何十+何十の計算をもとに、何十何+何十の計算を10のまとまりとばらに分けて計算する。	関 既習の計算 2位数の加 技 「何十何」+
	2	くり上がりのない2位数までの加法の計算は、10のまとまりとばらに分けて計算し、それぞれの結果を合わせればよいことを理解し、筆算で計算する。	技 くり上がりの の計算が筆 知 くり上がりの の計算のし
	3	一の位がくり上がる2位数と1位数の加法の計算方法を理解し、筆算で計算する。	考 一の位がくり上 の加法の計算方法を、既習事項をも とにして考え、説明している。 技 一の位がくり上がる2位数と1位数 の加法の計算が筆算でできる。
	4	一の位がくり上がる2位数と2位数の加法の計算方法を理解し、筆算で計算する。	技 一の位がくり上がる2位数と の加法の計算が筆算でできる 知 一の位がくり上がる2位数ま 法の計算のしかたを理解して
2 たし算の きまり (◎p. 28～29)	5	具体的場面で、加法の交換法則が成り立つことを理解し、それを活用して、加法の計算の確かめをする。	技 加法の交換法則を活用して、 計算の確かめができる。 知 加法では、交換法則が成り立 を理解している。
まとめのれん しゅう (◎p. 30)	6	基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	関 2位数までの計算に習熟し、 活に用いようとする意欲を としている。 技 2位数までの加法の筆算がで
ふくしゅう2 (◎p. 31)	1	復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	

<配慮事項>

- 計算ドリル20問中、10問を、授業の最初に取り組み。
- ドリルでは5分の問題を、本人が集中できるよう7分(の設定)で解かせる。
- ドリル10問終わるまで、次の学習に取り掛かれぬので、計算が終わってから教科書の学習を始めることは認める。

<Aさんの配慮事項>

- 計算ドリル20問中、10問を授業の最初に取り組み。
- ドリルでは5分の問題を、本人が集中できるよう7分(の設定)で解かせる。
- ドリル10問終わるまで、次の学習に取り掛かれぬので、計算が終わってから教科書の学習を始めることは認める。

② サンプルと解説その2

個別の指導計画					
校長	教頭	コーディネーター	学年主任	担任	
赤城	樺名	浅間	妙義	白根	期間は、 H27.04～H28.03

3 2けたのたし算 (指導時期 4月～5月・6時間)

単元の目標

2位数までの加法の計算は、10のまとまりとばらに分けて計算することや、一の位の計算が10の場合は十の位に1くり上ることを理解し、筆算で計算することができる。

- 関** 2位数までの加法の計算に習熟し、日常生活に用いようとする意欲をもつ。
既習の計算のしかたをもとにして、2位数の加法の計算を考えようとする。
- 考** 2位数の加法の計算のしかたを、既習事項をもとにして考え、答えの求め方を工夫している。
- 技** 和が2桁の範囲の2位数の加法の計算が筆算でできる。
加法の交換法則を活用して、加法の計算の確かめができる。
- 知** 和が2桁の範囲の2位数までの加法の計算のしかたがわかる。
加法では、交換法則が成り立つことがわかる。

- 知** ・三角形、四角形、正方形、長方形、直角三角形の用語や構成要素(辺、頂点、直角)、定義、性質について理解する。
・平面を図形でしきつめて、そのなかからいろいろな形を認めたり、できた模様的美しさを感じたりするなど図形についての豊かな感覚をもつ。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 三角形と四角形 (◎p.100～103)	1	・動物を直線でかこむ活動を通して、三角形や四角形の用語と定義、構成要素の辺や頂点を知り、三角形や四角形を弁別したり、作図したりする。	考 三角形や四角形の特徴を見いだすとともに、定義をもとにして図形を弁別し、そのわけを説明している。
	2		知 「三角形」、「四角形」の用語と定義、構成要素(辺、頂点)について理解している。
2 長方形と正方形 (◎p.104～107)	3	・紙を折って直角をつくる活動を通して、「直角」の用語や意味を知り、身のまわりから直角をさがす。	関 身のまわりから直角を見つけようとしている。
	4		技 紙を折って直角をつくることができる。
			知 「直角」の用語やつくり方を理解している。
5	・紙を使って長方形をつくる活動を通して、「長方形」の用語と定義を理解し、長方形の性質を明らかにする。	考 構成活動を通して、長方形の構成要素の特徴を見いだすとともに、定義をもとにして図形を弁別し、そのわけを説明している。	
6	・長方形の紙を使って正方形をつくる活動を通して、「正方形」の用語と定義を理解し、定義に基づいて図形を弁別する。	考 構成活動を通して、正方形の特徴を見いだすとともに、定義をもとにして図形を弁別し、そのわけを説明している。	
	・方眼を使って長方形や正方形をかき活動を通して、長方形や正方形についての理解を深める。	技 方眼を使って、正方形や長方形を図することができる。 知 正方形や長方形の定義や性質について理解している。	

【書類作成効率化の工夫】

「個別の指導計画」として位置付けることを明確にする手立てとして、例えば、ゴム印等で左のような枠を設けて、そこに押印していくなどしていく工夫も有効である。組織対応の根拠ともなる。

〈配慮事項〉、折り紙を折る、切り作業の時は、支援員と行う。

(はさみを担任が受け持つ)

・直角さがしの学習では、身近な物の方が予想できるためと安全面を考え教室の中でさがすようにする。

<Aさんの配慮事項>

- ・ 折り紙を折る作業、紙を切る作業の時は、はさみを担任から受け取り、支援員と行う。
- ・ 直角さがしの学習では、身近な物の方が予想できるためと安全面を考え、教室の中でさがすようにする。

(3) エリアサポート事業(モデル校)で用いた書式

① 書式例

相談支援シート1			
相談日： 年 月 日	〇〇立〇〇学校	〇年〇組	〇〇 〇〇
<p>○ 教師の願い</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
<p>○ 児童生徒の目標等</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p><中長期的な目標又は短期的な目標></p><hr/><p><目標達成に係る手がかり> (観察より)</p><hr/><p><手立て></p><hr/><p><結果> 月 日 現在の様子</p></div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p><今後の「話し合い」について> 継続・終了 (次回 月)(次回 月)(次回 月)</p></div>			

② サンプルと解説

【この書式で対応する場合の例】

- ・ 特にこの子には指導・支援する必要があると考える事柄があるような場合で、指導計画を個別に立案して取り組むスタイルである。
- ・ 例えば、「毎朝、宿題を出す」ことを目標に設定する場合に、どんな指導・支援を展開していくか、指導計画を立案して取り組む場合などがある。
- ・ 学習指導要領で規定される内容ではないが、教師が指導・支援すべき内容として判断したことを取り扱う場合にこの書式を活用するとよい。

個別の指導計画					
校長	教頭	コーディネーター	学年主任	担任	
赤城	櫻名	清間	松本	白根	期間は、H27.05から一箇月程度

5月22日 高崎市立中居小学校 ●年●組 ●●●くん 面談 7月10日

【話し合いの確認事項】

教師の願い

- ・ 思ったことをすぐに言う、他児に手を出すなどの衝動的な言動をしない。
- ・ 給食時に、座って食べる。

児童の目標等

〈短期的な目標〉 学習テーマ（がんばること）や自己評価（がんばったこと）を、教師に伝えることができる。

〈目標達成に係る手がかり〉（観察より）

授業の最初から「やりたくない」と独り言を言い、授業に対する期待感を失っていることがわかれる。

- ・ 9：30頃から教科書34ページに取り組みなど、教員が見通しを持たせ、学習課題について本児が納得して受け入れている時には、教師の指示通りに行動できる場面があった。学習課題はすぐに仕上げられた。
- ・ 支援員等に行動を注意される場面が何回かあったが、最後には耳をふさいで机に伏してしまった。
- ・ 授業中、先生に何かを伝えるために近づいた。流ちょうな話しぶりではなかったが、一生懸命話していた。
- ・ 授業内容とは別のことをしている時間が長く、糊遊び、クービー削り、自由帳に棒人間と吹き出しを書くなどを行っていた。

〈手立て〉（考えられる手立てですが、可能で有効と思われるものを試してください。）

- ・ 休み時間等で、家庭や学校生活の様子などをじっくり聞く機会を時々設ける。
- ・ 叱責する量や回数を減らせるように、環境や課題を調整する。
- ・ 単位時間の中で達成感が持てるように授業の課題を明確にし、本児が見通しを持てるようにする。本児なりの努力について積極的に評価し、励ますようにする。
- ・ 落ち着いてきたら、行動のルールを明確に示し、ルールを守れた姿をその都度賞賛するようにする。
- ・ マイペースで問題を解いてゆくスタイルが学習しやすい児童でありそうなので、個別に指示して、次の学習への見通しを持てるようにする。

〈結果〉 7月10日 現在の様子

- ・ 衝動的な言動については、まだ見られるが、他児に手を出すようなことは少なくなった。
- ・ 給食中の歩みは、服食後は、なくなってきたようだ。
- ・ 自分を見てほしいという願いが強いため、拳手をしたら早い段階で指名するようにしたり、つぶやきも拾うようにしたりしている。いろいろな先生と関わりを持つことができ、他の先生の存在も意識できている。放課後、個別で話をする機会を設けると、1時間くらい自分からいろいろな話をしてくるようになった。
- ・ 周りの児童の前で感情的になってしまう場面が、まだ見られる。

〈今後の「話し合い」について〉・・・・・・・・「継続」（次回9月）

【既存の資料を活用】

例えば、ゴム印で枠を作り、個別の指導計画として明確に位置付けることもできる。

「教師の願い」

- ・ 「こんな姿をみたい」「こんな行動をとってほしい」など、教師の願いを記入する。

「児童生徒の目標等」

- ・ 中長期的な目標又は短期的な目標のいずれか、あるいは両方など、子どもの実態や現在の状況等から設定する。
- ・ 目標を設定する際には、「～できる。」といった行動目標の形で設定する。（情意目標や「～しない。」などの目標は設定しない。）

「目標達成に係る手がかり」

- ・ 観察等とおして、目標達成に必要な手立てを検討する際の情報を端的に記す。

「手立て」

- ・ 「まずは取り組んでみよう」「これなら取り組めそうだと教師が考えたことを優先して記入する。

「結果」

- ・ 教師の一か月の取り組みと子どもの変容を評価し、次の一か月の指導・支援について検討する。
- ・ 次の一か月の計画を立案する。

(4) 通級指導教室で使用している書式

① 書式例

連絡表			
平成 年度		(自立活動指導計画)	
		作成日	
所属	小学校 年組 担任 先生	氏名	(男)
担当			
主訴		
初回指導日	平成年月日()	指導形態 / 指導時間	個別指導・小集団指導 毎週隔週 曜日 14:00～15:00
本人の願い			
保護者の願い			
その他			
指導目標	○ ○		
通級指導教室での指導内容 および 本児の様子	指導内容	本児の様子	
	●	.	
	●	.	
	●	.	